



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年2月7日
東

上場会社名 明和産業株式会社 上場取引所
 コード番号 8103 URL <https://www.meiwa.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大友 伸彦
 問合せ先責任者 (役職名) 主計財務部長 (氏名) 小林 敏弘 (TEL) 03-3240-9534
 四半期報告書提出予定日 2020年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	107,297	△8.8	1,216	△43.1	1,355	△45.7	1,876	1.2
2019年3月期第3四半期	117,673	12.9	2,138	52.4	2,498	21.9	1,853	26.6

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 1,167百万円(196.4%) 2019年3月期第3四半期 393百万円(△89.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	44.94	—
2019年3月期第3四半期	44.39	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	74,532	32,094	42.7
2019年3月期	72,150	33,277	45.8

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 31,841百万円 2019年3月期 33,033百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2020年3月期	—	44.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	12.00	56.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭	
通期	140,000	△9.4	1,100	△58.3	1,350	△58.5	2,000	△11.8	47.89

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	41,780,000株	2019年3月期	41,780,000株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	16,773株	2019年3月期	16,773株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	41,763,227株	2019年3月期3Q	41,763,227株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報を前提としているものであり、実際の業績は今後の様々な要因により大きく異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、米国の景気は底堅く推移したものの、欧州主要国の景気は足踏み状態となり、当社グループの重点国である中国においても引き続き成長率が低下しました。我が国経済においては景気は横這いで推移しましたが、今後、新型コロナウイルスによる景気への影響が懸念されており、先行き不透明な状態が続いております。

このような状況の下、当社グループは当連結会計年度が最終年度である3ヶ年中期経営計画「Next Stage 2019」に基づき、ポートフォリオマネジメントを推し進め事業戦略を推進してまいりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,072億9千7百万円と前年同期の8.8%にあたる103億7千5百万円の減収となりました。営業利益は12億1千6百万円と前年同期の43.1%にあたる9億2千1百万円の大幅な減益、経常利益についても、13億5千5百万円と前年同期の45.7%にあたる11億4千2百万円の大幅な減益となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益については、18億7千6百万円と前年同期の1.2%にあたる2千2百万円の増益となりました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の1株当たり四半期純利益は44.94円となりました。

なお、主な要因は以下のとおりであります。

- ・売上高については、第二事業、第三事業、自動車事業が前年並みとなったものの、第一事業が大幅に減少したことにより減収となりました。
- ・営業利益については、販売費及び一般管理費は減少したものの、主に第一事業の売上総利益が大幅に減少したことにより減益となりました。
- ・経常利益については、営業利益の減少ならびに自動車事業の持分法による投資利益が減少したこと等により減益となりました。
- ・親会社株主に帰属する四半期純利益については、経常利益が大幅に減少したものの、政策保有株式の一部縮減による投資有価証券売却の特別利益が発生したこと等により増益となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

なお、セグメントごとの主な事業、事業内容及び主な取扱商品は次のとおりであります。

セグメントの名称	主な事業	事業内容及び主な取扱商品
第一事業	電池材料事業 資源・環境ビジネス事業 樹脂・難燃剤事業 医薬関連開発事業	電池材料 レアアース・レアメタル、環境関連 合成樹脂・難燃剤 原薬・医薬中間体
第二事業	石油製品事業 石油ビジネス開発事業	潤滑油、ベースオイル、添加剤 海外事業開発
第三事業	高機能素材事業 機能建材事業	化学品原料、印刷材料、合成樹脂加工品 機能建材
自動車事業	自動車事業	自動車部品関連事業

① 第一事業

第一事業の売上高は、206億4千8百万円と前年同期の32.6%にあたる100億2百万円の減収、セグメント損失が、2億1千2百万円と前年同期から9億6百万円の減益（前年同期は6億9千3百万円の利益）になりました。

これは主に各取引が以下の通り推移した結果によるものです。

- ・電池材料事業は、自動車用などの電池材料の需要の大幅な減少により取引が低調に推移した他、市況下落の影響により一部取引において損失が発生しました。
- ・資源・環境ビジネス事業は、環境関連が前年同期並に推移し、資源関連は堅調に推移しました。
- ・樹脂・難燃剤事業は、難燃剤が好調に推移し、樹脂は前年同期並みに推移しました。
- ・医薬関連開発事業は、新規事業が実現しました。

② 第二事業

第二事業の売上高は、317億1千1百万円と前年同期の1.3%にあたる4億円の増収、セグメント利益につきましては、7億9千4百万円と前年同期の10.3%にあたる7千4百万円の増益になりました。

これは主に各取引が以下の通り推移した結果によるものです。

- ・石油製品事業は、潤滑油及び添加剤が概ね前年同期並みに推移しましたが、ベースオイルは需要が回復し堅調に推移しました。また、中国潤滑油事業は空調機業界向け新冷媒用の冷凍機油が前年同期並みに推移しましたが、産業機械向けなどの需要低迷の影響を受け低調に推移しました。
- ・石油ビジネス開発事業は、新規事業の開拓が進み、取引を開始しました。

③ 第三事業

第三事業の売上高は、528億4千4百万円と前年同期の1.3%にあたる7億7百万円の減収、セグメント利益につきましては、8億1千6百万円と前年同期の19.7%にあたる1億3千4百万円の増益になりました。

これは主に各取引が以下の通り推移した結果によるものです。

- ・高機能素材事業は、加工フィルム及び合成樹脂加工品は堅調に推移したものの、化学品原料が微減となった結果、前年同期並に推移しました。
- ・機能建材事業は、断熱材が首都圏の建設需要の増加により順調に推移したものの、防水資材は天候不順等により低調に推移しました。
- ・全体として、売上高は前年同期並みとなったものの、販売管理費の減少もありセグメント利益は好調に推移しました。

④ 自動車事業

自動車事業の売上高は、18億5千2百万円と前年同期の0.9%にあたる1千6百万円の増収、セグメント利益につきましては、2千1百万円と前年同期の92.1%にあたる2億5千万円の減益になりました。

これは主に以下の通り推移した結果によるものです。

- ・持分法による投資利益が減少したことにより、減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、745億3千2百万円と前年度末の3.3%にあたる23億8千1百万円の増加となりました。また、負債は424億3千7百万円と前年度末の9.2%にあたる35億6千4百万円の増加、純資産については、320億9千4百万円と前年度末の3.6%にあたる11億8千3百万円の減少となりました。

この結果、自己資本比率は42.7%となりました。

なお、主な要因は以下のとおりであります。

- ・流動資産は583億8千1百万円と前年度末の6.5%にあたる35億4千2百万円の増加となっておりますが、これは、主に政策保有株式の売却による現金及び預金の増加と、在庫商品の積み増しでたな卸資産が増加したためであります。また、商品仕入れの増加に伴い、流動負債では前年度末に比べて仕入債務が増加しております。
- ・固定資産は161億5千1百万円と前年度末の6.7%にあたる11億6千1百万円の減少となっておりますが、これは、主に政策保有株式の売却に伴う投資有価証券の減少によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年5月14日に公表しました、2020年3月期の通期連結業績予想を修正しております。詳細につきましては、本日(2020年2月7日)公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,409	7,711
受取手形及び売掛金	42,904	41,644
商品	6,885	7,871
その他	812	1,325
貸倒引当金	△173	△171
流動資産合計	54,838	58,381
固定資産		
有形固定資産	696	1,055
無形固定資産	141	134
投資その他の資産		
投資有価証券	15,494	14,007
その他	1,095	1,069
貸倒引当金	△115	△116
投資その他の資産合計	16,475	14,961
固定資産合計	17,312	16,151
資産合計	72,150	74,532
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	28,380	32,218
短期借入金	4,622	4,241
1年内返済予定の長期借入金	133	530
未払法人税等	539	503
賞与引当金	603	463
受注損失引当金	—	107
その他	552	1,022
流動負債合計	34,831	39,088
固定負債		
長期借入金	522	50
役員退職慰労引当金	21	22
退職給付に係る負債	1,042	1,054
その他	2,455	2,222
固定負債合計	4,041	3,349
負債合計	38,873	42,437

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,024	4,024
資本剰余金	2,761	2,761
利益剰余金	23,288	22,825
自己株式	△4	△4
株主資本合計	30,070	29,607
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,157	2,651
繰延ヘッジ損益	△2	△1
為替換算調整勘定	282	13
退職給付に係る調整累計額	△473	△430
その他の包括利益累計額合計	2,963	2,233
非支配株主持分	244	253
純資産合計	33,277	32,094
負債純資産合計	72,150	74,532

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	117,673	107,297
売上原価	109,028	99,607
売上総利益	8,644	7,690
販売費及び一般管理費	6,506	6,474
営業利益	2,138	1,216
営業外収益		
受取配当金	179	187
持分法による投資利益	421	183
その他	69	55
営業外収益合計	670	426
営業外費用		
支払利息	118	113
その他	191	173
営業外費用合計	310	287
経常利益	2,498	1,355
特別利益		
固定資産売却益	50	—
投資有価証券売却益	—	1,358
その他	—	3
特別利益合計	50	1,362
特別損失		
投資有価証券評価損	—	23
減損損失	—	3
その他	15	3
特別損失合計	15	29
税金等調整前四半期純利益	2,533	2,688
法人税、住民税及び事業税	666	820
法人税等調整額	△6	△28
法人税等合計	660	792
四半期純利益	1,872	1,896
非支配株主に帰属する四半期純利益	19	19
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,853	1,876

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	1,872	1,896
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,128	△548
繰延ヘッジ損益	3	0
為替換算調整勘定	△230	△286
退職給付に係る調整額	81	45
持分法適用会社に対する持分相当額	△205	59
その他の包括利益合計	△1,479	△728
四半期包括利益	393	1,167
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	376	1,146
非支配株主に係る四半期包括利益	17	20

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(ASC第606号「顧客との契約から生じる収益」の適用)

持分法適用会社において、第1四半期連結会計期間よりASC第606号「顧客との契約から生じる収益」を適用しております。これにより、約束した財又はサービスが顧客に移転された時点で、当該財又はサービスと交換に権利を得ると見込む対価を反映した金額で、収益を認識しております。

当該会計基準の適用については、経過措置として認められている当該会計基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用し、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

なお、当該会計基準の適用が四半期連結財務諸表に及ぼす影響は軽微であります。

(IFRS第16号「リース」の適用)

在外連結子会社において、第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」を適用しております。

なお、当該会計基準の適用が四半期連結財務諸表に及ぼす影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	第一事業	第二事業	第三事業	自動車事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	30,651	31,310	53,551	1,836	117,349	323	117,673
セグメント間の内部 売上高又は振替高	59	46	38	0	144	1	146
計	30,710	31,357	53,590	1,836	117,494	324	117,819
セグメント利益 又は損失(△)	693	720	681	271	2,367	△56	2,311

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、硝子製品事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	2,367
「その他」の区分の利益又は損失(△)	△56
セグメント間取引消去	56
全社費用(注)	129
四半期連結損益計算書の経常利益	2,498

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社経費であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	第一事業	第二事業	第三事業	自動車事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	20,648	31,711	52,844	1,852	107,056	240	107,297
セグメント間の内部 売上高又は振替高	71	89	22	—	183	3	186
計	20,719	31,800	52,867	1,852	107,240	244	107,484
セグメント利益 又は損失(△)	△212	794	816	21	1,420	△108	1,311

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、硝子製品事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益又は損失	金額
報告セグメント計	1,420
「その他」の区分の利益又は損失(△)	△108
セグメント間取引消去	132
全社費用(注)	△88
四半期連結損益計算書の経常利益	1,355

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費及び営業外損益であります。